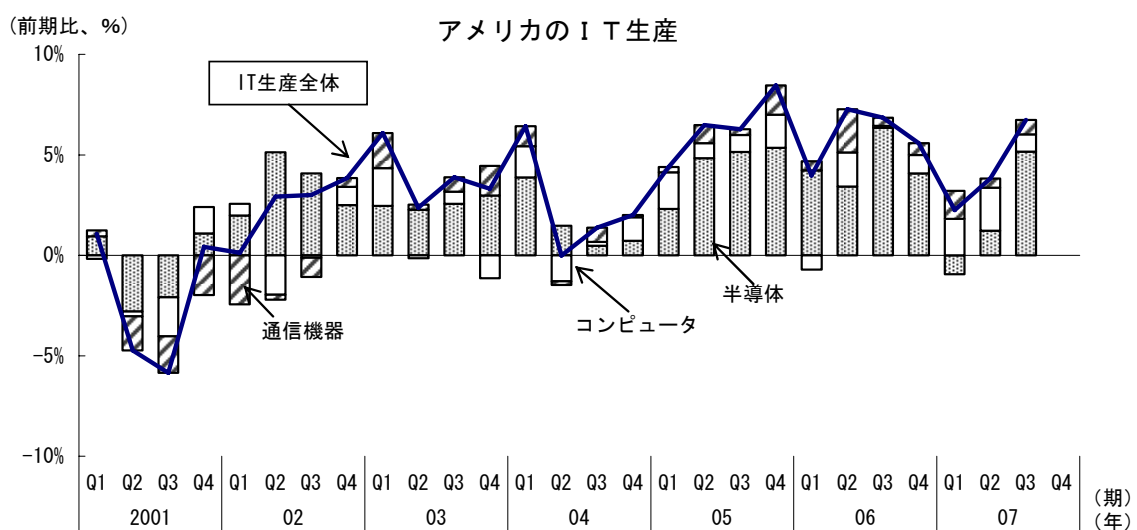


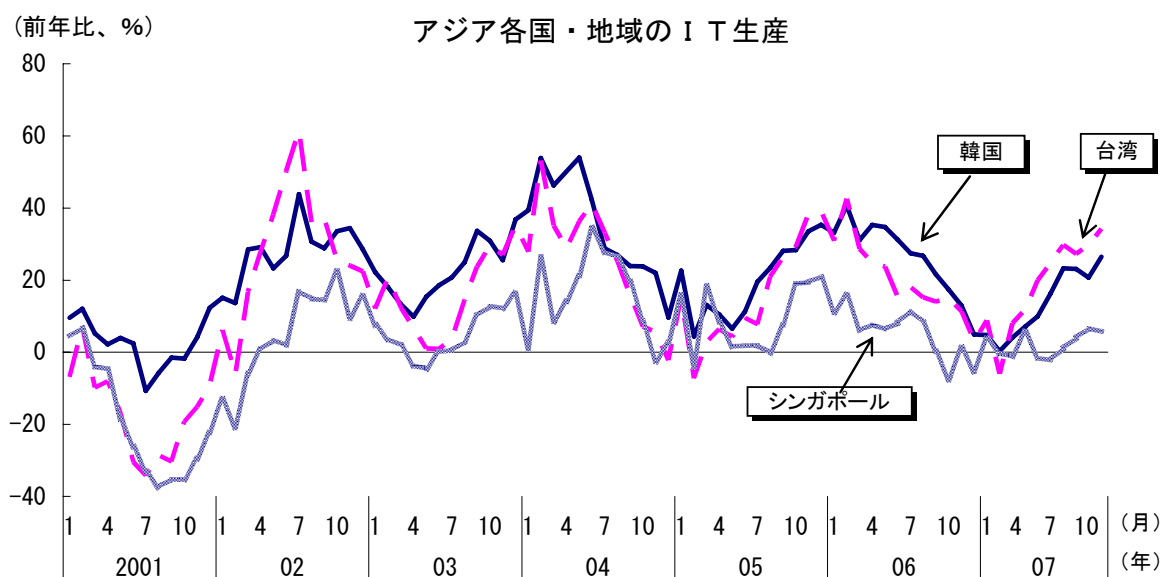
<最近の状況>

アメリカでは、I T生産は、02年半ばから回復に転じ03年以降は拡大が続いてきた。06年下期から07年1～3月期には、アメリカ景気拡大の減速に伴って伸びがやや鈍化したものの、その後は持ち直してきている。内訳をみると、デジタル家電、携帯電話、携帯音楽プレーヤー等、用途が拡大している半導体が全体の伸びをけん引している。

アジアの I T生産は05年下期から拡大してきたものの、アメリカの I T生産同様に06年下期から07年1～3月期にかけて伸びが鈍化した。その後、在庫調整の進展から持ち直している。



(備考) F R Bより作成。



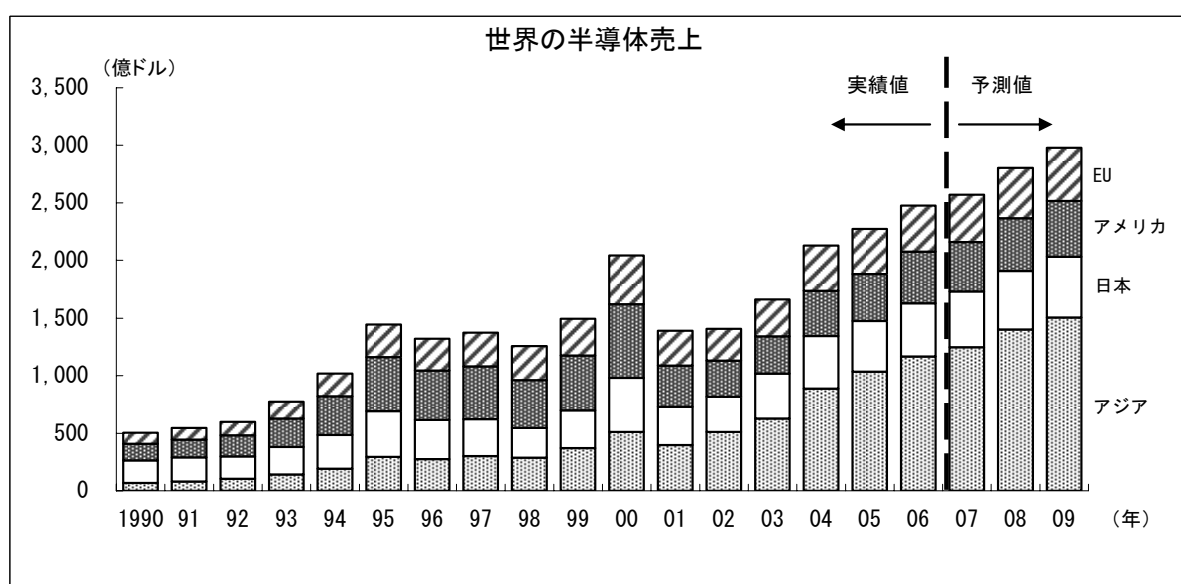
(備考) 1. 各国・地域統計より作成。

2. 韓国は電子製品・部品等、台湾は電子部品、シンガポールは電子製品・部品。

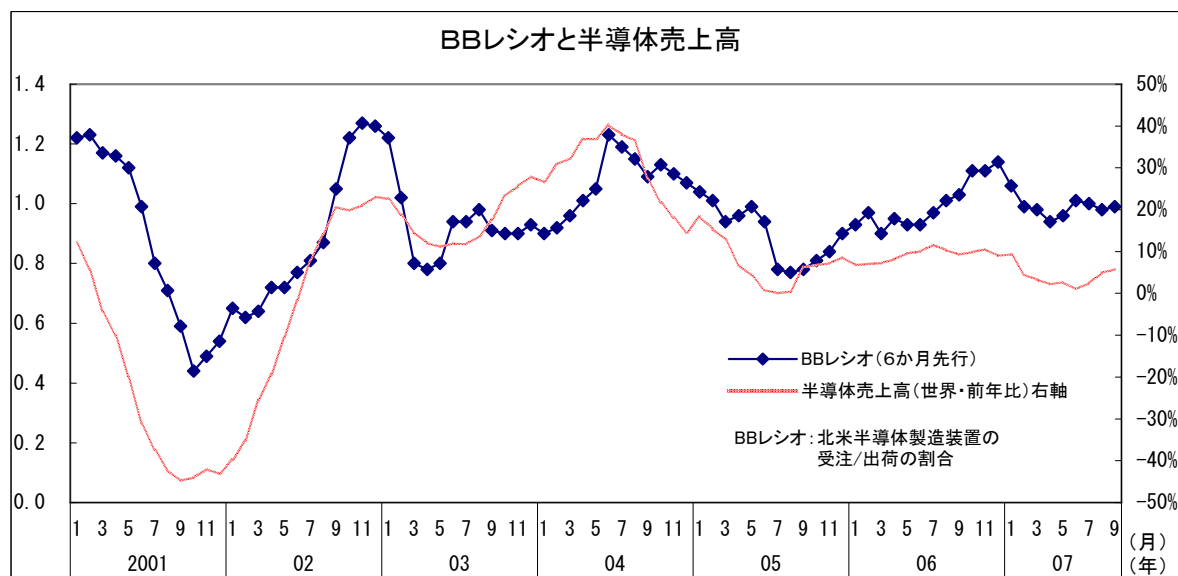
世界の半導体売上の推移をみると、ITバブル崩壊後の03年以降は回復に転じている。06年は前年比8.9%と05年の同6.8%増から伸び率が拡大したが、07年はアメリカの売上高減少を受けて同3.8%と伸びが緩やかになると見込まれている。

＜今後の動向＞

近年、従来のコンピュータ、通信機器向けに加え、デジタル家電や携帯音楽プレーヤー、自動車部品など一般消費者向けのIT製品の需要は拡大している。足元では、先行指標といわれる北米半導体製造装置BBレシオをみると、循環的な需要鈍化の兆候もみられるものの、SIA（米国半導体協会）は、アジア地域におけるIT製品需要の拡大等を背景に、世界の半導体売上は、08年に前年比9.1%増、09年に同6.2%増と堅調な伸びが続くと見込んでいる。



(備考) S I A (米国半導体工業会)



(備考) S I A (米国半導体工業会)